

第3回 伊東市津波対策富戸地区協議会議事録

場 所：富戸コミュニティセンター

日 時：平成 28 年 6 月 17 日（金）19:00～

出席者：地元役員・関係団体 19 名、県関係者 11 名、市関係者 4 名

1. 挨拶

挨拶



2. 熱海土木事務所から説明

- ・今まで地区協議会の振り返り
- ・配付資料についての説明



3. 伊東市から説明

- ・災害に対する取り組みの説明
- ・避難計画の策定についての説明



4. 話し合い（ワークショップ）

- ・資料 1 により、第 2 回地区協議会において出された、地震・津波発生時に想定される課題と対応策を確認します。その際、ハード対策の方針（護岸整備はしない）も確認します。
- ・資料 1 を見ながら、地元としての意見をまとめていくため、資料 2 を使い、数グループに分かれて意見を出し合ってください。
- ・グループワークの内容は、
 - ① 対応策の抽出（新規アイデアも）
 - ② 対応策の具体化（具体的な避難ルートの特典など）
 - ③ 優先順位（短期的対策（2～3 年）、中期的対策（10 年以内）、長期的対策）つけです。



5. 意見発表

1 グループ

我々が話した中では、大きい地震があった時の崖崩れ、津波の心配な所は、西町の〇〇さんの家から下側 10 軒位の所が、心配じゃないか。ここが、ポイントの 1 つ。そして、もう 1 ヶ所のポイントが私の港の周辺。港の漁業組合の所から波止場の所までが津波と崖崩れ両方の危険があるということ。この 2 つのポイントについて話し合った。

そして、ここにネットが張ってあるが、そのネットが落石で破れている所もあるということなので、大雨でも石が落ちるようなことがあると思うが、大きい地震があったら大きな被害が出るんじゃないかと思われるということと、この下の横磯の下の道は非常に海拔が低いが、この県道だと 14m 位あるので、まず先にこっちに上がって、一刻も早くこの県道に上がるために階段を付けてほしいという意見が出た。それから、私の港の方なんです、私公園の下側でここに住んでる区民は全然いない。もしここに津波が来ても、いるのはダイバーだけで、富戸区民は 1 人もいないのではないかと、そういう話があった。それでも階段を私公園に沿った道の所に階段を 3 ヶ所程付ければ、ダイバーはお客様なので、その人達も助かるのではないかという話になった。

あと、私町の方は、避難路が県道のほかにも山を通る道も 2 か所あるが、この 2 つは崖崩れ、石垣崩れの危険性が高いので車で逃げるのは危険だという意見も出た。あと、この階段もそうですし、港から上に上がる階段の設置の計画が中期になっているが、これを短期にしてくれると非常に有難いという意見が出た。



2 グループ

2 班は、この西町のかまやさんの、この区域です。この区域の方々の避難場所を三島神社に第1段階という提案をした。かまやさんのここから三島神社が1番近くて、この人達の人員把握も迅速にできるという考え。コミュセンより小学校が遠いので、第1段階はこの三島神社を設定した。

あと、逃げ道として、光る看板一懐中電灯で照らして、非常階段や非常口で出る、人の形をした、ライトで逃げる人が見えるような反射板を設置して欲しい。あとは、山海荘さんの下も避難路なんですけど、ここに手すりの必要があるじゃないかという意見と先程、1 班でも出ました、このところに階段を付けて欲しいという要望があった。高さは5、6mあり、なかなか要望通りに行くかどうか分からないが、階段を付けた方がいいんじゃないかという案。

高齢者をどのように避難させるかという問題もあるが、消防とかも出払ったりして、崖崩れがあった場合にはこの県道の方も通行止めになるという想定をして、こちら側の人達が三島神社で、点呼を取るような形をとった方がいいんじゃないかという意見が出た。

港の方では避難場所を払町会館…消防会館が良いのではないかとということで設定した。避難路も3ヶ所あるがここだけは勾配が急なので、ここも、各所に光る看板を付けた方がいいんじゃないかという意見が出た。あとは大体、1 班と似たような意見が多かった。



3 グループ

私達の班で津波が来た時に一番心配なのは、外れの所は県道に上がるところに県道との段差があるのでかまやさんから、山海荘に上る道が階段で狭いので改良してもらえれば、外れの近辺の人が山海荘の所に登って、八幡野海岸線に行けると思う。全体としては、避難場所は西町から上は小学校、払町は富戸公園ということになっているがさすが、払町については、酒屋の所とそれから、〇〇さんの所が石積みがあるので、もし石積みが壊れて県道とかこの教職員住宅に上っていく道が通れなくなった時には、下の道を通して、払の公園の所をですね、上に上って、消防会館の所から、県道に上って、富戸公園に行くというようなルートになるのではないかと思います。

いずれにしても、津波でどの程度の被害があるかというのもあり、昔ながらの石積み、空積みがありますので空積みがどの程度崩落するかということによって避難路が変わってくるのではないかと思います。日頃から津波とか、空積みの崩落について、通った時に、ここは危ないとか、そういうように、思うことが大事じゃないかと思う。



4 グループ

4 班ですけど、どちらのグループでも具体的に、それぞれのポイントから逃げる避難経路、逃げる方向を赤い矢印で、記してみた。その中で、その逃げる経路の途中で危ないような所、切り通しの所とか、石積みがある所は、避難の途中で危険なので、整備が必要ではないかということで、ピックアップした。

